

地域おこし協力隊 活動記 Vol.114

6月に観測した夏日の合計23日は最多、7月14日には7月としては過去最高の36・4℃を記録……この夏、弘前市は観測史上最高の暑さとなっています。冬は冬で記録的な大雪でしたから、まさしく、IPCC（気候変動に関する政府間パネル）がいうところの「極端な気象現象」（いわゆる異常気象）が弘前市でも現実のものとなりました。

相馬が誇るりんごをはじめとした農作物への影響が気になりますが、酷暑がもたらす不都合は農業だけにとどまりません。熱中症のリスクが高まれば人々の外出は減り、いきおい商業や遊興施設の売り上げも思うようにあがらないでしょう。ただでさえ「28（につばち）2月と8月」は売り上げが落ち込むといわれています。大阪・関西万博も夏に入つて入場者数が伸び悩んでいるそうです。

万博といえば、青森県で万博に負けず劣らずの盛り上がりを見せる夏のイベントといえば、ねぶたでしょう。この稿を書いた時点では審査運行等を迎えています。7月27日（日）には相馬ねぶたの町内運行が行われました。暑さにめげず、多くの子もたちが参加する姿を見て、ねぶたがこの地方の人々にとって欠かせない伝統文化であることを改めて実感しました。どんなに気候が変わっても、

ねぶたは欠かすことのできない「夏の行事」であり続けることでしょう。

町内運行の日には、「紙漉の里」で岩木山麓獅子舞連合会の共演会が催されました。紙漉沢獅子舞保存会の演舞には穂坂基隊員が臨時に雌獅子を務めました。獅子を舞ったあとすぐに町内運行に参加。もしかしたらこの日もとても暑さとの過酷な戦いを強いられたのは、彼なのかもしれません（ちなみにわたしは加賀は裏方に徹しました）。



岩木山麓獅子舞連合会の共演会。穂坂隊員が雌獅子を務める

「暑いですね」があいさつ代わりになっている相馬ですが、暑さ寒さも彼岸までとはよくいったもので、着実に季節は移りつつあります。朝晩は少しですが涼しさを感じるようになりました。ねぶた、そして来月迎えるお山参詣で、熱さをたくわえて、寒さに備える——いにしえより続く伝統行事には、そんな意味もあつたのかもしれません。極端な気象はごめんですが、相馬地域の盛り上がりは、毎年過去最高をめざしたいものです。



ねぶたweekのはじまりを告げる町内運行

